

## 増訂版の編纂経過について

I - 1. 1955 (S.30) 年 4 月、中国より日中文化交流のため日本人民に贈呈された東亜同文書院大学で作成の 14 万枚の資料カードの到着を出発点とし、愛知大学（本間喜一学長）は中日辞典出版を決意しました。そして、鈴木沢郎編集委員長、内山雅夫、今泉潤太郎、張祿沢等を編集員とする編集委員会及び学外の協力を得、経費の調達を計る辞典刊行会を成立させました。

- 2. 1968 (S.43) 年 2 月、13 年の歳月をかけて辞典は完成しました。2,000 頁、親字 1 万 1 千、語彙 10 万を越え、当時唯一の本格的な中日辞典であったので敢えて中日大辞典と名づけました。

発行・発売は株式会社大安、のち株式会社療原、印刷は図書印刷株式会社であります。

辞典の出版を記念し、中国人民対外友好協会へ 2,000 冊を寄贈、中国人民の好意を謝しました。この年の中日文化賞を受賞し、1982 年の 8 刷まで好評裡に 7 万冊を印刷、国外では中国をはじめ香港・東南アジアなどから多数、ヨーロッパ・アメリカなどからも需要があり、台湾を含む中国では多数が内部発行されているようであります。

II - 1. 1973 (S.48) 年 6 月、辞典関係者が訪中し、南開大学、北京大学、復旦大学で開催された辞典座談会に参加し有益な教示を得ました。帰国後、かねて時代の変化に応ずる辞典作りを考えていた鈴木先生は増訂版の編纂を提唱、1975 (S.50) 年 4 月、大学当局は正式に辞典改訂を決定、編集主任 鈴木沢郎、編集委員長 今泉潤太郎、編集委員 陶山信男・荒川清秀・白井啓介・黄異（1986 年 2 月現在）らにより改訂がはじまりました。

- 2. 改訂に際しては、基本的性格、編集原則は変えず、誤りを正し不備を補うこと、できるだけ新語彙を加えることに重点をおきました。以来、本学に赴任された北京語言学院の先生方、また北京農業機械化学院の黄志明先生ら中国人スタッフの協力を得て、11 年を費やし、本年完成した増訂版は旧版にくらべ 700 頁増の 2,700 頁、親字同じく 2,000 字増の 13,000 字、語彙 3 万増の 14 万語となりました。発行は大修館書店、印刷は凸版印刷株式会社、17,000 冊を印刷いたしました。

- 3. この間、1981 (S.56) 年 1 月、本辞典生みの親ともいう鈴木先生が逝去されました。1984 年 9 月には 2 年間にわたる編纂に協力された黄志明先生が中国に帰られ間もなく逝去されました。中日大辞典増訂版が今日ここで盛大に出版記念会を祝賀されるはこびとなったのも、お二人はじめ日中両国の人々の協力の賜物であります。ま

た本学で中国語を学ぶ学生諸君が多数、校正などに積極的に援助をしてくれたことを申し添えておきます。

甚だ簡単ではありますが、以上を以って編纂経過といたします。

---

[注] 1986年6月今泉編集委員長の編纂経過報告骨子。